歩いて知るきのくに歴史探訪

中世藤並・田殿の息吹を感じて

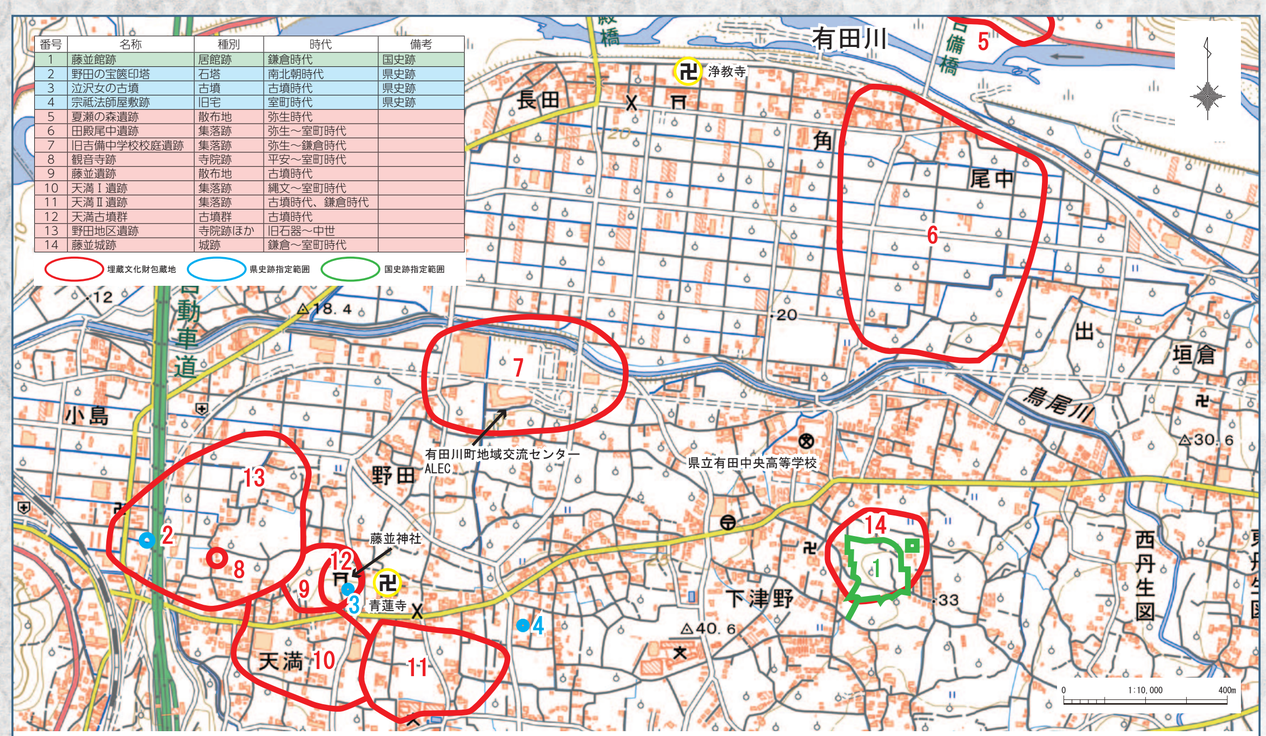
古絵図で歩く有田川南岸の文化財マップ

上：浄教寺四脚門
下：藤並館跡南の土塁発掘調査状況（南から・有田川町教育委員会提供）

有田川町の西部では、中世において藤並荘・田殿荘とよばれる荘園がありました。この地は華厳宗中興の祖として鎌倉時代に活躍した明恵上人が幼少期を過ごし、修行のため度々訪れた地でもあります。

藤並荘は湯浅党の一員である藤並氏が地頭を務めた荘園でした。藤並荘は、連歌を芸術として大成させた宗祇法師の生誕地としても伝えられています。

有田川町には、数多くの文化財があります。このマップでは、発掘調査で詳細が明らかになりつつある藤並館跡をはじめとした明恵上人・藤並氏・宗祇法師にまつわる文化財や、その周辺の文化財を紹介します。マップを手に歩き、有田川町の藤並荘・田殿荘の歴史を再発見しましょう。



番号	名称	種別	時代	備考
1	藤並館跡	居館跡	鎌倉時代	国史跡
2	野田の宝篋印塔	石塔	南北朝時代	県史跡
3	泣沢女の古墳	古墳	古墳時代	県史跡
4	宗祇法師屋敷跡	旧宅	室町時代	県史跡
5	夏瀬の森遺跡	散布地	弥生時代	
6	田殿尾中遺跡	集落跡	弥生～室町時代	
7	旧古備中学校校庭遺跡	集落跡	弥生～鎌倉時代	
8	観音寺跡	寺院跡	平安～室町時代	
9	藤並遺跡	散布地	古墳時代	
10	天満Ⅰ遺跡	集落跡	縄文～室町時代	
11	天満Ⅱ遺跡	集落跡	古墳時代、鎌倉時代	
12	天満古墳群	古墳群	古墳時代	
13	野田地区遺跡	寺院跡ほか	旧石器～中世	
14	藤並城跡	城跡	鎌倉～室町時代	

埋蔵文化財包蔵地　県史跡指定範囲　国史跡指定範囲

※国土地理院ウェブサイト提供（https://maps.gsi.go.jp/#16/34.066365/135.212066/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c0j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0）に（公財）和歌山県文化財センターが加筆した。

▶天満１号墳（泣沢女の古墳）　県史跡

藤並神社境内にある古墳時代の円墳です。墳丘の大きさは直径 21 ～ 24 mで、周囲には幅３mの周濠が巡っていたことが発掘調査で明らかになっています。

両袖式の横穴式石室より、複数の釘が出土したことから、中には遺体を納めた木棺が置かれていたと考えられています。石室には紀の川流域のものとは異なり大きな石が使用されています。石室の形態や出土した須恵器や鉄器、耳環（耳飾り）から、７世紀頃に造られたと推定されます。

また、出土した遺物の中に鈴帯と呼ばれる、古代の役人が身に着けたベルトの金具があったことも注目されます。

この古墳は、昭和 33 年（1958）に県指定文化財に指定されました。発掘調査後、保存活用のための整備がされており、石室の内部を見学することができます。

天満１号墳（泣沢女の古墳）

出土した鈴帯（有田川町教育委員会提供）

▶湯浅党

湯浅党は、平安時代末期から南北朝期にかけて活躍し、鎌倉時代には紀伊国最大の勢力を誇った湯浅一族を中核とする武士の集団です。

高野山や京都の高山寺などに残された文献史料に記録があり、有名なものとして有田川上流域の阿弖河荘で、地頭であった湯浅氏の横暴を告発したカタカナ書きの訴状「阿弖河荘上村百姓等片仮名書言上状」（国宝　又続宝簡集）があります。教科書などにもこのエピソードが掲載されており、湯浅党は鎌倉時代の有名な武士団の一つと言えます。

湯浅党の中心である湯浅氏は、平安時代後期の院政期頃から湯浅荘を中心に勢力を拡大していきました。平治元年(1159)の平治の乱が起こった際には湯浅宗重が平清盛を助けましたが、後の源平争乱においては最終的に鎌倉幕府の御家人となって本領安堵（土地や財産を保証）され、湯浅党発展の礎を築いています。

湯浅党の主な構成員は、血縁関係のある同族の「一門」と婚姻関係や養子関係による疑似的な血縁関係によってむすびついた「他門」からなり、この２つを中心にして有田地方を中心に勢力を広げています。

▶藤並氏と藤並館跡

平安時代以降の有田地方には寺などが所有する多くの荘園があったと考えられていますが、それらの荘園の一つに藤並荘があります。藤並荘の名前は『兵範記』仁安２年（1167）10 月・11 月巻裏文書「三河権守高佐奉書」に書かれたものが初めてとみられます。藤並氏は、藤並荘の地頭職を務めてきました。

藤並氏の初代とされる藤並十郎親は、湯浅宗重の娘と結婚して、湯浅党の「他門」として主要な構成メンバーであったと考えられます。

藤並荘とその周辺（上空西から）
（有田川町教育委員会提供）

藤並館跡の東堀と土塁（北から）
（有田川町教育委員会提供）

藤並館跡は有田川町下津野に所在し、「土居の内」「土居の堀」「堀の内」（※土居とは土塁などで区切られた区画のことを指しますが、転じて居館や城などを指す言葉となります。）とも呼ばれている城館遺跡です。中世藤並荘の推定範囲にあることから、この地域の地頭職（鎌倉幕府が設置した荘園監理を担う職）を担っていた藤並氏に関連する遺跡とされてきました。

現在は大半が畑地ですが、土塁と南側を除いた三方の堀に囲まれた方形区画が良く残っています。平成 29 年度に有田川町教育委員会によって北堀と土塁の一部を含む南堀推定地の発掘調査が行われています。土塁は、３度の改修が行われていたことが明らかとなり、盛土内から鉄鏃や土師器・瓦器等が出土しました。これらの遺物の年代から、土塁が 13 世紀中頃に造られたことが明らかとなり、この城館が藤並氏にかかわるものと判明しました。また、南堀推定地では幅６mの堀や礎石が検出されたほか、瓦器や備前焼、中国製青磁などの焼き物や木製品が出土しています。

令和３年（2021）に湯浅氏の本拠地であった湯浅城跡と併せて「湯浅党城館跡湯浅城跡　藤並館跡」として国史跡に指定されました。

藤並館跡出土鉄鏃（有田川町教育委員会提供）

歩いて知るきのくに歴史探訪

中世藤並・田殿の息吹を感じて

令和4(2022)年3月18日発行
発行:公益財団法人和歌山県文化財センター(〒640-8301和歌山市岩橋1263番地の１)

▶明恵上人（1173～1202）

明恵上人は華厳宗中興の祖として鎌倉時代に活躍した僧侶です。

明恵上人は承安３年（1173）に石垣荘（現在の有田川町大字歓喜寺）で湯浅宗重の娘と平重国の間に生まれましたが、８歳のころ両親を相次いで失い、湯浅党他門の崎山良貞のもとで育てられたのち、叔父の上覚のいる京都の神護寺に入って華厳宗・真言宗の教えを学びました。出家した後は京都の高尾を自身の拠点としていましたが、有田地方に度々訪れて、修行をしており、その際に草庵を営んだ場が明恵上人紀州八所遺跡として現在まで残っています。

明恵上人は建永元年（1206）、京都に高山寺を再興しました。ただひたすらに仏の道を究め修行を重ねる姿は、今でも多くの人々に敬われています。

▶明恵上人紀州八所遺跡

吉原遺跡西隣の掘立柱建物群（南から）

有田市・有田川町・湯浅町に点在する、明恵上人が修行を行った場の７箇所と明恵上人の生誕地を加えた８箇所の遺跡は明恵上人紀州八所遺跡と呼ばれています。これらの遺跡には明恵上人の草庵があったことを示す卒塔婆がありますが、これは明恵上人の弟子の喜海が木製の卒塔婆を建立したことに始まります。卒塔婆は康永３（1344）年に弁迁により石造の卒塔婆に建て替えられ、崎山遺跡を除く７箇所で現在も残されています。うち卒塔婆が残っている７箇所は明恵紀州遺跡率都婆として国史跡、卒塔婆の残っていない崎山遺跡は有田川町史跡に指定されています。紀州八所遺跡のうち５つ（吉原遺跡、筏立遺跡、糸野遺跡、神谷遺跡、崎山遺跡）が有田川町にあります。

このうち明恵上人生誕の地と伝えられている吉原遺跡の西隣では発掘調査が行われ、13 世紀中ごろの掘立柱建物跡が５棟見つかっています。この周辺には、明恵上人をたたえて歓喜寺が再び建てられました。これらの掘立柱建物群も明恵上人にゆかりのある施設であったと考えられます。

▶野田の宝篋印塔　県指定文化財

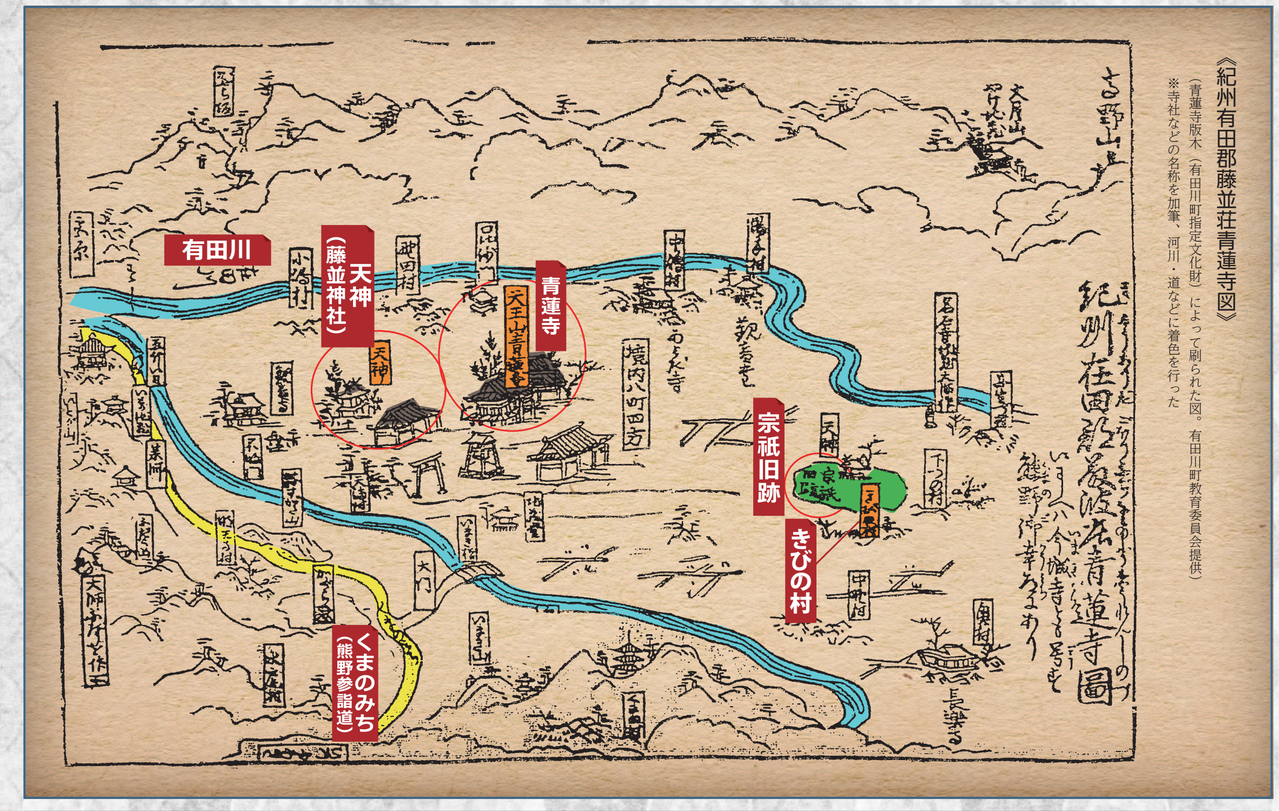
宝篋印塔は、供養塔や墓碑塔となる石塔の一種です。野田の宝篋印塔は、観音寺という寺院の跡地とされる場所付近に建てられており、高さ 316.6㎝で砂岩製の宝篋印塔としては県内最大規模のものになります。

宝篋印塔には「貞和二年丙戌二月十八日　大願主沙弥盛範大工橘国□」という銘が刻まれています。銘から南北朝時代の貞和２年（1346）に願主連合（＝湯浅党）によって建立されたとみられます。

また、塔の位置が明恵上人紀州八所遺跡のほぼ中央にあり、この塔が建てられた年が明恵上人紀州八所遺跡の卒塔婆が建て替えられた２年後であることから、この宝篋印塔はこれらの卒塔婆の建て替えと何らかの関係があると考えられています。

※位置は裏面地図に掲載

野田の宝篋印塔



《紀州有田郡藤並荘青運寺図》
（青運寺版木（有田川町指定文化財）によって刷られた図。有田川町教育委員会提供）
※寺社などの名称を加筆、河川・道などに着色を行った

▶浄教寺

浄教寺は、文明４年（1472）に明秀上人によって開かれた浄土宗西山派の寺院です。室町時代より田殿荘の主要な寺院として栄えはじめました。江戸時代になると、浄教寺と最勝寺や明恵上人との関連性から、川向にある内崎山法蔵寺を浄教寺の奥の院として、地域拠点としました。内崎山法蔵寺には、明恵上人紀州八所遺跡の崎山遺跡、金刀比羅宮、修行大師、稲荷神、八十八か所霊場を祀った九十六の祠があります。創建当時は現在より 70 メートル程北に位置していましたが、昭和 28 年（1953）の有田川の水害の影響で、昭和 32 年（1957）に現在の位置に移されました。

浄教寺本尊

▶浄教寺と文化財

浄教寺は現在多くの文化財を有しています。有田川北岸の山間部にかつて最勝寺という寺院があり、明恵上人がこの付近（明恵上人紀州八所遺跡の一つ・神谷遺跡）で修行を行っていた鎌倉時代に最盛期を迎えていました。しかし豊臣秀吉による紀州支配の影響を受けて領地を没収され、江戸時の初頭になくなりました。浄教寺は最勝寺等の文化財を受け継ぎ、現在も守り続けています。これらの文化財には、重要文化財に指定されている大日如来坐像や仏涅槃図などがあります。仏涅槃図は、一般的に知られているものと異なり天蓋（屋根のようなもの）のデザインが加えられていますが、これは明恵上人の発案であったと伝えられています。また、本堂の前におかれている礎石も最勝寺から移されたものと伝えられています。このように、明恵上人ゆかりのものを含む多くの文化財が浄教寺によって今も伝えられています。

浄教寺ホームページ　https://www.jyokyouji.com/

▶青蓮寺と青蓮寺版木

青蓮寺は、斉明天皇が孫の建王子の菩提寺として斉明４年（658）に建立した救世観音宗の寺院です。一時は荒廃していましたが、高野山を開く前の弘法大師がこの寺院を復興し、この地域で真言宗を伝える拠点にしたと言われています。

町指定文化財である青蓮寺版木は、寺院の本堂の床下から見つかりました。室町時代における青蓮寺周辺の様子を描いたものとされますが、版木自体は字体などから江戸時代に作られたと考えられています。版木には、青蓮寺のほか、藤並神社や熊野参詣道といった今も続く歴史的な場所がいくつも描かれています。

▶宗祇法師（1421～1502）

宗祇法師屋敷跡

宗祇法師は、室町時代に活躍した歌人で、連歌を大成させた人物であり、西行法師や松尾芭蕉とともに三大放浪詩人としても知られています。

連歌とは、複数人で和歌の五・七・五と七・七を交互に詠んで一つの作品をつくる文芸で、鎌倉時代から主に貴族や武士の間で流行していました。それまでの連歌は、賭け事の対象になるなど遊びとしての側面が強かったのですが、宗祇法師により芸術性を重視したものになりました。

宗祇法師の生誕地は諸説ありますが、青蓮寺から見つかった版木により、生誕地が吉備野（黍野とも。現在の有田川町下津野周辺）という説が有力となりました。現在、この場所は宗祇法師屋敷跡として県史跡に指定され、保存整備がなされています。

▶旧吉備中学校校庭遺跡

旧吉備中学校校庭遺跡は、現在の鳥尾川南岸の中低地を中心に広がる弥生時代から室町時代の集落跡です。この遺跡からは竪穴建物跡や方形周溝墓が見つかったほか、北部九州で出土するものとよく似た小形仿製鏡が県内ではじめて出土しました。この遺跡は弥生時代後期に集落としての最盛期を迎えたと考えられます。この時期の和歌山県内の集落は高地性集落が多く、有田川流域では低地の集落は見つかっていませんでしたが、この遺跡から低地の集落が発見されたことにより、弥生時代後期の集落構造を再検討させるきっかけとなりました。

鎌倉時代・室町時代になると、付近に墓跡（屋敷墓）を伴う集落が出現します。居住域のそばに墓域が作られる、この時期ではよくみられる集落構造です。

現在、遺跡内に立地する有田川町立地域交流センターＡＬＥＣでは、発掘調査で見つかった弥生時代の竪穴建物跡が移築再現され、出土遺物とともに展示されています。

※位置は裏面地図に掲載

上：出土小形仿製鏡（県指定文化財）
下：竪穴建物跡（北西から）
（ともに有田川町教育委員会提供）